

平成30年度 船員災害疾病発生状況【災害編】②

先週に引き続き、平成30年度に発生した死傷災害(582人)の状況について紹介します。

▽災害発生数の多い作業

「整備・管理」……115人(20%)
・外内航船(47人)
・漁船(46人)
・その他(22人)

「漁ろ」……107人(18%)
・外内航船(0人)
・漁船(107人)
・その他(0人)

「出入港」……95人(16%)
・外内航船(43人)
・漁船(21人)
・その他(31人)

「漁具魚網取扱」……63人(11%)
・外内航船(0人)
・漁船(61人)
・その他(2人)

※その他：官公庁署所属船および起重機船などの作業船

▽災害発生数の多い場所

「甲板」……375人(64%)

「機関室」……43人(7%)

「階段」……31人(5%)

「港湾施設」……27人(5%)

「倉庫」……23人(4%)

▽年齢階層別災害発生状況

「60歳以上」……150人(26%)
・外内航船(43人)
・漁船(74人)
・その他(33人)

「55歳～59歳」……73人(13%)
・外内航船(22人)
・漁船(37人)
・その他(14人)

「50歳～54歳」……58人(10%)
・外内航船(14人)
・漁船(35人)
・その他(9人)

「35歳～39歳」……58人(10%)
・外内航船(12人)
・漁船(35人)
・その他(11人)

「40歳～44歳」……56人(10%)
・外内航船(19人)
・漁船(28人)
・その他(9人)

年齢階層別では、高齢者船員(50歳以上)が全体の56%と半数を占めています。

災害の発生原因としては、「慣れ」からくる油断により被災するケースや、高齢化に伴う運動機能・体力の低下により適切な動作をすることができず、被災するケースが考えられますので気をつけましょう。

これらの船員災害の発生状況に留意し、あらためて自身の作業行動や船内設備の再点検・改善に努めましょう。